

## 外部人材を活用した学習活動の充実について

～学校を支援する外部人材や地域の教育資源の活用と充実～

千葉県立印旛特別支援学校

電話 0476-98-2200

FAX 0476-98-0969



### 研究のポイント

副題にある「外部人材」と「地域資源」に着目して研究を進めていく。一つめの「外部人材」においては、数年前から『職業』や『作業学習』、『生活単元学習』などの授業において施設や企業の方などを招いて講義を受けたり、近くの大学(順天堂大学)やサークルと一緒に活動していたりした活動を実施しており、その活動の教育課程への位置づけや効果を検証する。二つめの「地域の教育資源」については、所在地である印旛特別支援学校本校(印西市)、さくら分校(佐倉市)の地域の人々との交流や持続性のある教育活動を行っていく。また、それらの活動を通して、今後の児童生徒にとって主体的・対話的で深い学びに繋がられるような授業実践を目指していく。

### ■学校の概要

<https://www.chiba-c.ed.jp/inba-sh/>

昭和55年4月に印旛郡市2市6町村を学区とし、心身に障害を持つ児童生徒の学校として開校した。現在は知的障害の児童生徒を対象とした特別支援学校となっている。平成24年4月より、全県を学区とした『さくら分校』(普通科職業コース)を開設した。今年度で開設13年目を迎える。佐倉南高等学校の校舎の一部を借り、各学年2学級ずつ、計6学級で48名の定員となっている。

### ■研究課題

外部人材を活用した学習活動の充実に関する実践研究を行う。

### ■研究の目的と方法

#### 【目的】

外部人材の活用を通して学校から地域等への積極的な発信をし、地域との繋がりを構築していくことで学校教育の質の向上、更には地域の教育力の向上を図ることを目的とする。

#### 【方法】

- ①外部人材活用の学習を教育課程上に位置づけ、目的・ねらいや児童生徒との関わり方を明確にし、その教育的効果を検証する。
- ②中学部作業学習(コーヒー班)と生活単元学習 単元「アウトドアで仲良くなろう!」についてはPDCAのサイクルで授業改善を図り、年間指導計画・単元計画の見直しを行う。
- ③さくら分校の『佐倉市制70周年記念事業(佐倉市との繋がり)』については、

ESD の観点から集会等を設け、自分たちの豊かな生活へと目を向けていく。佐倉市議会における意見交換会(代表生徒6名)に向けて事前学習を行い、市議会参加を通して「地域とのつながりについて」意識を広げていく。

## ■研究概要

### 1 外部人材の活用

◇中学部 作業学習(コーヒー班)、生活単元学習(単元「アウトドアで仲良くなろう!」)での活動

〈見えてきたこと/成果と課題〉

- ・生徒にとって専門家の先生は特別の存在。教員からの指導以上に、この先生から知識や技術を習得したいという気持ちが強く感じる。普段は静かな生徒も、この時は自分から積極的に近づき、話しかける場面が多々見られた。
- ・外部人材から褒められることで、生徒は嬉しそうな豊かな表情が多く見られ、授業への取り組み方に変化が見られた。
- ・生徒下校後、職員に技術・知識をレクチャーしてくれた(コロンビア焙煎、コーヒーの基本知識・応用)おかげで、職員も指導がしやすくなった。
- ・アウトドアの体験を通し、生徒は家で親に話をしたり学校で学んだ野外調理をしようとしたりする姿が見られた。
- ・休みの日は家に籠り気味だった生徒も、「外で何かしたい」、「やってみたい」という声が聞かれ、興味関心の広がりにつながった。
- ・外部人材を活用するにあたり、日程や回数の調整の難しさを感じる。

### 2 地域の教育資源

◇さくら分校 農園芸コース、佐倉市市制70周年プロジェクト

〈見えてきたこと/成果と課題〉

- ・農業の専門家が野菜を大切に育てる姿に影響を受け、自分たちの畑で自分たちが育てるという意識が強くなった。収穫した野菜を、地域の人たちが喜んで買ってくれたことに感謝し、自信を深められた。
- ・佐倉市市制70周年プロジェクトの各行事・取組は、生徒にとって大きな励みとなった。ESDの学習では佐倉市長をはじめ、たくさんの市役所の方たちと交流を行った。佐倉市にある学校として、多くの地域の方に守られているという意識を生徒たちは強く持てた。

### 3 今後に向けて

- ・佐倉市との繋がりを実感することができたが、今後それをどう広げていくか。ESDの学習の一環として、受動的ではなく、今後は自分たちから佐倉市に『発信』していくような“ひろがり”を持たせていきたい。
- ・他学年や他学部にも興味をもってもらえるように、学習の様子や生徒の変容等をより発信していきたい。大学の先生から教員向けに研修をしていただいたが、生徒への支援を更に充実させるため、研修の回数を増やしていきたい。

## 関連資料

